

1 学校関係者評価委員会の構成

| | |
|--------|-----------------------|
| 栗屋 恒子 | (保護司・本校元PTA会長) |
| 稲船 千里 | (スクールコーディネーター・元PTA会長) |
| 千嶋 佳子 | (浮間子ども・ティーンズセンター所長) |
| 麻生 晃寿 | (本校現PTA会長) |
| 鈴木 恵裕 | (民生児童委員) |
| 小林 あけみ | (北区立浮間保育園長) |
| 高木 一春 | (青少年浮間地区委員会会長) |
| 奥村 宏 | (北区立浮間中学校長) |
| 宮崎 史隆 | (本校校長) |
| 窪田 尚子 | (本校副校長) |

2 学校関係者評価委員会の主な活動

① 第1回学校評議会

- 令和2年6月19日(金) 16時～17時
 ○学校評議会委員会の日程他説明
 ・学校長あいさつ・今年度の学校経営方針、学校状況説明
 ・学校評議会委員の今年度の学校経
 ・学質
 ・質疑応答

② 第2回学校評議会・学校関係者評価委員会

- 令和2年12月11日(金) 16時～17時
 ○学校評価中間評価報告

③ 第3回学校評議会・学校関係者評価委員会

- 令和3年2月26日(金) 16時～17時
 ○学校評価集計結果及び改善策の提示、改善策について協議
 ・学校評価の報告
 ・今年度の教育活動と児童の状況について報告
 ・来年度の学校経営及び教育活動について
 ・学校関係者評価
 ・改善策を踏まえた来年度の教育活動について協議

3 学校関係者評価の結果と分析

① 学習面 自己評価3⇒関係者評価3

・ICT機器を活用した授業の実施(教員の評価No.9)に差が見られる。ICT機器を活用することで、児童の興味関心を高めることにより学習効果があがることを期待する。

・わくわくうきま広場では学習室の利用率が高い。子供たちが進んで宿題などの学習に取り組み、互いに教え合う姿が見られた。漢字検定の過去問を多くの児童から求められるほど熱心に取り組んでいた。学習意欲を喚起することができている。その一方で保護者の29%が児童の家庭学習に課題(意欲的に取り組んでいない)を感じているので、コロナ禍で保護者会等が十分にできなかったことがあるとは思いますが、学校と家庭の連携が十分でなかったと思われる。

② 生活面 自己評価3⇒関係者評価3

・安全に関する指導が計画的に実施できている(教員評価No.18)ようだが、2月13日(土)夜の大きな地震の後にはどんな指導をしたのか?⇒15日(月)の全校朝会(校長)と学級担任でそれぞれ指導を行ったと回答

・学童クラブ、わくわくうきま広場ともに児童は手洗いの習慣がとてもよく身に付いている。

・6年生の中には毎日ゲームを3時間以上行っている児童が14人(16.5%)いることや、保護者が就寝してから悪いことと知りながらもオンラインゲームで他者とつながっている児童がいると聞きびっくりした。子供たちは小さいときからゲームに親しんでいることから、ゲームと現実の世界の区別が付かないようであり、睡眠不足から来る基本的な生活習慣(保護者の評価No.2)に心配が見られる。

・孫の様子を見ていてもコロナ禍のため自宅で過ごすことに慣れてしまい、運動不足になっている。そのことで体力が低下していると思われる(保護者項目8)。学校で補えればよいが、UETができないなど活動を制限せざるを得なかったのは理解できる。

③ 特色ある教育活動の推進 自己評価3⇒関係者評価3

・学童で児童の様子を見てみると、年下の子供に思いやりの心を持ち接することや、年長の子供が年下の子供のモデルとなるような行動をする様子が、例年より低調である。異学年交流が進んでいない(教員評価No.20)ところが影響していると思う。

・2月8日に行った特別支援教育の校内研修会に参加させていただいた。その際、療育機関の先生から保護者の一部に特別支援学級への偏見があることを聞いて悲しくなった。

・うきま里山の活動を支えるボランティア希望者が低学年や特別支援学級の保護者を中心にいると聞いて安心した。

④ 特別の教科である道徳（道徳科）の充実 自己評価3⇒関係者評価3

・交通指導員さんが児童に「さようなら」と声をかけているのに、児童は聞こえていないのかそのまま過ぎ去ってしまった。その一方で、赤信号を渡ろうとする友達に信号無視をするといけないうと注意する姿も見られた。

⑤ 地域人材・外部人材の活用 自己評価2⇒関係者評価3

・1月にさくら草の芽分け作業をボランティアと連携して5年生に指導した。2月には浮間地区の伝統行事である「万垢離」について4年生に講演を行った。3月にさくら草の歴史と文化について5年生に講演を行う予定である。コロナ禍であるが貴重な機会となった。

4 改善の方策についての意見

(1) 学習面

- ・毎年、6年生の家庭で中学進学に向け学費で困っている家庭がないか心配している。貧困家庭の児童について地域でも心配している。GIGAスクール構想により一人一台のタブレットが貸与され、学習活動を家庭と連携して行うとのことだが、すでに家庭間で教育格差があることから、学校や行政がどう支援していくかが課題である。
- ・子供を見ていて確かな学力がついているか相対的にどうか知りたいと思う。コロナ禍で学級保護者会がなく情報が得られなかったので、工夫して教えてほしい。

(2) 生活面

- ・ゲームアンケート集計結果を生かして、SNS家庭ルールの作成や見直しを保護者と連携して取り組むとともに、セーフティ教室など機会をとらえてインターネットリテラシーを十分に指導してほしい。
- ・児童に他者とコミュニケーションをとることの大切さを理解させ、交通指導員さんをはじめとして地域でも挨拶ができるようになると嬉しい。

(3) 特色ある教育活動の推進

- ・さくら草や万垢離などの取り組みは大変有意義である。子供たちが将来地域の担い手となり、次の代に伝統を伝えていくためにも、これからもこれらの活動は継続することが大切である。
- ・昔はさくら草祭りがあり盛大な賑わいであった。今は時代が変わったがうきま里山の活動をこれからも末永く続くことを願っている。

(4) 特別の教科である道徳（道徳科）の充実

- ・子供たちに道徳の意味を十分に理解させてほしい。今学んでいることが将来どのように役に立つのかなど、これからどう生きていくか考えさせたい。
- ・先ほどの特別支援学級への偏見について聞くと、ぜひ学校が特別支援教育の大切さについて保護者に発信してほしいと強く思う。

(5) 地域人材・外部人材の活用

- ・昨年度行った防災円卓会議では学校を避難所とする防災活動について課題を把握することができた。次年度は地域と連携した防災活動を重視して取り組むことが重要である。
- ・浮間地区は台風発生時の浸水被害にも対応しなければならない。児童・保護者ともに危機意識をもたせたい。
- ・さくら草の芽分けについて学校便り2月号を見た地域の元さくら草ボランティアから反響があった。芽分け作業の時に子供たちが私達ボランティアに「教えてください」ととても一生懸命であった。これからも子供たちにこのような学びを大切にしてほしいと願う。